

皆様おはようございます。早6月最後の礼拝となりました。

梅雨入りは5月末でしたから、もう梅雨に入って1か月。もう梅雨も終わりの時なのかもしれません。蒸し暑い日々、皆様熱中症にお気を付け頂きまして、こまめに水分補給をして頂きたいと思います。

さて、ヘブル書も4章に入りました。

ユダヤ人たちに、天使に勝るイエス様、モーセに勝るイエス様を伝え、イエス様に躓くことなくその救いを受け入れることが出来るようにと綿密に語られています。

3章では、前章では、盛んに、「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、荒野における試練の日に、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにはいけない。」と語られました。そして「わたしは怒って、彼らをわたしの安息にはいらせることはしない、と誓った」とも書かれています。心をかたくなにして、1か月余りでたどり着く道のりを40年もかける中で、多くの人たちは約束の地を見ることなく荒野で息絶えました。

不従順と不信仰とを捨てて、モーセに勝る導き手、救い主、イエス様に頼りなさいと書かれていました。そして4章でも引き続き、念入りにそのことが語られています。

1 それだから、神の安息にはいるべき約束が、まだ存続しているにかかわらず、万一にも、はいりそこなう者が、あなたがたの中から出ることがないように、注意しようではないか。

「わたしは怒って、彼らをわたしの安息にはいらせることはしない、と誓った」と何度も語られながら、神様は慈しみ深く、神の安息にはいるべき約束を、まだ存続させておられます。ですから、万一にも、はいりそこなう者が、あなたがたの中から出ることがないように、注意しようではないかと聖書は語り掛けます。

2 というのは、彼らと同じく、わたしたちにも福音が伝えられているのである。しかし、その聞いた御言は、彼らには無益であった。それが、聞いた者たちに、信仰によって結びつけられなかったからである。

かつて出エジプトの奇跡を頂きながら、心をかたくなにし、不従順のうちに荒野をさまよった民の事が記してあります。その時彼らに語り掛けられた神様からの御声、御言葉は、彼らには無益であったと記してあります。心頑なな人たちのためには、せっかくの神様のお言葉は、助けにならず、事を成して働かず、ためにならず、無益だったとあります。それはどうしてでしょうか。それは彼らが信仰、信心、神様に信頼すること、良心に神様の言葉を結びつけなかったからであるということが語られています。

神様の御言葉は、私たちが信仰に結び付ける、信頼と良心に結び付けることがないのならば、私たちに助け、事を成し、私たちのためになる事はありません。後でも出てきますが、「精神と靈魂と、関節と骨髓とを切り離すまでに刺しとおす」御言葉の力によって、私たちの心

の奥底、骨の髄までもがこの神様のお言葉に反応、応答するものでなければ、御言葉による神様の御力と救いを受けることは出来ないと言われています。もっと言えば、私たちを救う御言葉という素晴らしい言わばお薬は、私たちの心の奥底、骨の髄まで染みとおらなければ、その力を発揮することはないという風に理解することも出来ると思います。

- 1 それだから、神の安息にはいるべき約束が、まだ存続しているにかかわらず、万一にも、はいりそこなう者が、あなたがたの中から出ることがないように、注意しようではないか。
- 2 というのは、彼らと同じく、わたしたちにも福音が伝えられているのである。しかし、その聞いた御言は、彼らには無益であった。それが、聞いた者たちに、信仰によって結びつけられなかったからである。

私たちの心の奥底からの信仰、神様への信頼が形づくられ、良い心が陶冶される時、そうして私たちに御言葉が結びつくとき、御言葉は無益に終わることなく、私たちを救い、助け、事を成し、役に立つものとなります。ですから私たちは心をかたくなにせず、心素直に、心を柔らかくして、神様の御言葉に向かい、心の底まで御言葉に照らし合わされ、それに応答するものでありたいと願います。

- 6 そこで、その安息にはいる機会が、人々になお残されているのであり、しかも、初めに福音を伝えられた人々は、不従順のゆえに、はいることをしなかったのであるから、
- 7 神は、あらためて、ある日を「きょう」として定め、長く時がたってから、先に引用したとおり、／「きょう、み声を聞いたなら、／あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない」／とダビデをとおして言われたのである。

始めに福音を伝えられた時。モーセの時。彼らは不従順のゆえに、安息に入ることはありませんでした。しかし長く時がたってから、ダビデの時に神様はまたも「きょう、み声を聞いたなら、あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない」と民に語られました。

- 8 もしヨシュアが彼らを休ませていたとすれば、神はあとになって、ほかの日のことについて語られたはずはない。
- 9 こういうわけで、安息日の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。
- 10 なぜなら、神の安息にはいった者は、神がみわざをやめて休まれたように、自分もわざを休んだからである。
- 11 したがって、わたしたちは、この安息にはいるように努力しようではないか。そうでな

いと、同じような不従順の悪例にならって、落ちて行く者が出るかもしれない。

ヨシュアは民を約束の地、安息の地へと連れて行きましたが、ここで言う、「ヨシュアが彼らを休ませていたとしたら」という言葉は、ここにはヨシュアが民に与えた安息以上の安息があるということを指し示しています。すなわちそれに勝る地上での安息であり、天での安息です。

その大いに勝る安息に入る努力をして、素晴らしい休息に入るように、かつての不従順の悪霊に従わず、救いの約束から落ちた者が出ないように気をつけなさいと聖書は語ります。

12 というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。

先にもありました通り、私たちにとって御言葉とは、生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができます。この御言葉を私たちの心の確信である信仰や神様への信頼、心の奥底からの良心によって結び付け、その方法によって御言葉を受け止めるのでなければ、私たちは御言葉に対することが出来ないのです。うわべだけ聞きかじったり、ただ聞いた忘れてしまうのではなくて、生きていて、力があり、精神と靈魂という、心の最も深い所の区別しがたい深いところが一刀両断に切り分けられ、峻別されるが程に切れ味の鋭い、神様の生ける、力ある御言葉を恐れます。関節と骨髄を切り離す。関節と骨髄にとって、それが表と裏で一体であるものでありながら、どこまでが関節で、どこまでが骨髄であるかが分かり難いものでありながら、それとはっきりと峻別するような力ある生ける御言葉が、心の思いと志を、思いと態度、意思と意図、目的までもはっきりと詳らか(つまびらか)にするということが書かれています。

13 そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。

そうです。「神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない」のです。そのように心の内奥を、今思っている思いもこれから何を成

そうと考えているかの意図も志もすべて骨の髄まで知り尽くす、丸裸にするお方の前で、レントゲン撮影のように、私たちの心の奥底すべてと行動のすべてを知り極められるお方に、私たちはどう弁明をすることが出来るのでしょうか。

14 さて、わたしたちには、もろもろの天をとおって行かれた大祭司なる神の子イエスがいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか。

そこで登場なさるのが私たちの主イエス様です。

「さて、わたしたちには、もろもろの天をとおって行かれた大祭司なる神の子イエスがいますのである」

ピリピ 2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

私はこの賛美の歌を思い起こします。

御名を掲げて Lord I Lift Your Name on High Psalm148:13

御名をかかげてあなたをたたえます

救いのために あなたはこられた

救いの道を与えに

天よりくだり、来られた

十字架により いのちあがないよみがえられた

Lord, I lift Your name on high
Lord, I love to sing Your praises
I'm so glad You're in my life
I'm so glad You came to save us

You came from heaven to earth to show the way
From the earth to the cross, my debt to pay
From the cross to the grave
From the grave to the sky
Lord, I lift Your name on high

イエス様は天の神の御座に座り続けることに固執されずに人となりて天から降りて私たちと共に住み、実に人となりてされも人に仕え、人の罪の身代わりとなって、実に十字架につき、実に墓に下られ、実に黄泉に降られ、しかしながら三日目に復活し、そしてのちに天に昇られ、父なる神の右の座に戻られました。

このように下に下に、そして上に上にと私たちのために移動されました主をほめたたえます。

14 さて、わたしたちには、もろもろの天をとおって行かれた大祭司なる神の子イエスがいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか。

野を分け谷を越えという言葉がありますが、イエス様は天を分け、黄泉に下り、そしてまた天に凱旋されました。諸々の天を通して私たちのために来られたイエス様を誇り、感謝し、このお方をいつも力強く告白したいと願います。

2 コリント 12:2 わたしはキリストにあるひとりの人を知っている。この人は十四年前に第三の天にまで引き上げられた——それが、からだのままであったか、わたしは知らない。からだを離れてであったか、それも知らない。神がご存じである。

15 この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。

そうです。私たちはこのお方のおかげで、すべてご存じでいらっしゃるにもかかわらず、私たちの浅はかさも自分勝手さも、我田引水で自我が強いことも、傍若無人なことも、その思いも行動も、思いも志もてんで独りよがりなのをご存じで、私たちの弱さをすべて知りながら、それに思いやることのできない、同情できない方ではいらっしゃらないのです。憐れみのお方なのです。シンパシー(深い憐れみと共に同情の心)を持ってくださるお方なのです。

あらゆる点で私たちと同じように、神の子でありながら、私たちを苦しめるすべての試練すら味わって下さいました。しかし私たちは弱く、試練に負けて罪を犯しますが、イエス様は試練のオンパレードの中でも罪を犯されませんでした。ここに私たちの目標があります。弱音を吐いて、涙を流して、もう駄目だ、意志薄弱でどうにもこうにも、箸にも棒にもかからない、私たち人間は弱くて何も良いことが出来ないのだと、ただ泣き続ける必要はないのです。全てをご存じの方が、人としての目当て、目標を掲げられ、しかしその通りに行かないにしても責めることをせず、弱さに同情して下さい、この目当てに従って昇って来なさいと愛をもって私たちの主イエス様を助けの命綱として私たちに与えて下さるのです。子の命綱は決して切れることはありません。

16 だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか。

だから、私たちは助けを受けるために、命綱を得るために、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではありませんか。

どうにもこうにもならない弱い私たちを引き上げるために送って下さいました私たちの主にすがり、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではありませんか。

ただ恵みにより、ただ救いにより、ただ憐れみによって、私たちは救われます。私たちのためにはこの憐れみ深い大祭司、執り成し手がいて下さいます。

ですから私たちは、はばかることなく、心を広げて、大胆に、自信と確信をもって、もう迷うことなく、はっきりとした心で、時宜を得た、タイムリーな助けを与えて頂くために、恵みの御座に恵みの玉座に近づこうではありませんか。私たちはイエス様に愛され、選ばれ、恵みの御座に近づき、共にあって導きと救いを得、確かに今安息の中において、これからも天の安息に入ることが出来ますから、神様に感謝を捧げましょう。

ただ恵みと憐れみによって、私たちはそのような者とされています。いつも心を頑なにせず、今日、そして今日と一日一日神様の前に、すべてをご存じになっておられる神様の前に、生ける力ある御言葉の導きを頂きながら、心の奥底、骨の髄にまでその御言葉の力を頂いて、ただ御言葉を聞いて忘れる、肝心の時に御言葉からそれてしまうのではなくて、御言葉の力

にすぎり、御言葉を守り行い、そうして弱さのあるまま、失敗した時にはその時その時懺悔の捧げものをもって主の御前に戻り、恵みの御座に与かって、時宜にかなった助けと癒し、励ましと慰めを頂こうではありませんか。主に感謝をとこしえにおささげいたします。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。福音が与えられているにもかかわらず、心をかたくなにし、信仰を持って受け入れることもせず、自らの思うがままに進もうとする者にも、神様はお見通しでいらっしゃるけれども、なおわたくしたちの弱さに同情して下さり、憐れみと恵みとのゆえに時宜にかなった助けを与えて下さいますから、ありがとうございます。私たちには偉大な大祭司、神の子イエス様がおられ、いつも私たちをかばい、弁護して下さいますから、本当にありがとうございます。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン